

別紙 1 - 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 廣瀬 崇

論 文 題 目

Endocytoscopy is useful for the diagnosis of superficial non-ampullary  
duodenal epithelial tumors

(表在性非乳頭部十二指腸腫瘍の診断に対する超拡大内視鏡の有用性)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

江畑 智希 

名古屋大学教授

委員

小寺 泰弘 

名古屋大学教授

委員

内田 広夫 

名古屋大学教授

指導教授

藤 成 亮弘 

## 論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

今回、表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍(SNADETs)に対する超拡大内視鏡の新たな分類を作成し、実際に撮像した画像を用いてその有用性や評価者間一致率が評価検討された。さらに、正診率の向上に寄与する因子が検討された。正診率は既報の通常内視鏡観察での正診率や生検による正診率と比較しても良好な結果であり、評価者間一致率も良好な結果であることが示された。これにより観察部位に対して適切な評価を行っており、評価者間の誤差も比較的小さい事が示された。また、染色方法についても近年発がん性の可能性が報告されるクリスタルバイオレットが不要であることを評価し、電子拡大観察とメチレンブルー染色を併用することが正診率向上に寄与することが示された。本研究に対し、以下の点を議論した。

1.本検査の実臨床における汎用性について、検査時間は組織の染色と観察を合計しても数分間と短く、実臨床においても許容される範囲内であると考えられた。生検を行わずに診断を行うことが可能となれば、病変に対する内視鏡治療を容易にすることが可能となる点は利点と考えられた。上皮性腫瘍の中でも低異型度のものを識別することで、必要以上の治療介入を控える事ができる可能性があることを示した。一方で病変の存在診断や、粘膜下腫瘍などに対する有効性は定まっておらず、上皮性腫瘍に対する精査が主たる目的と考えられた。

2.SNADETs は粘液形質が胃型、腸型に大別される。一般的に胃型は腸型に比して予後が悪いとされているため、粘液形質の同定に有用であればさらに有意義と考えられた。これについては今回の研究では検討しておらず、今後の課題であると考えられた。

3.本検査は通常内視鏡よりさらに繊細な扱いが要求されると考えられた。対象病変に内視鏡先端を接触させる必要があり、観察部位もよりピンポイントに決定する必要があると考えられた。しかし、観察を行った病変に対して内視鏡的切除術を行う場合には同様の繊細な動きが必要不可欠である為、同病変に対して治療を行う前提であれば習得すべき動作と言えると考えられた。それでもなお、微小な陥凹性病変では陥凹内への内視鏡の圧着が困難な場合が存在しうることも議論された。

本研究は、SNADETs に対して新たな診断法を提案し、その有用性を示した。診断及び治療法が定まっていない本疾患に対して重要な知見を提供した。

以上の理由より、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	廣瀬 崇
試験担当者	主査	江畑智希	副査	小寺泰弘
	副査	内田公夫	指導教授	藤城克
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 本検査の実臨床における有用性と汎用性について</li><li>2. 本研究の今後の課題について</li><li>3. 本検査を実施する手技的難易度について</li></ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				